

SGS NewsLetter

第3号

発行日 2011年9月1日

学部長あいさつ「大学におけるキャリア教育」



学部長 松林 正一郎

SGS NewsLetter 第3号をお届けします。

SGS創設から5年目、一期生53名を社会に輩出し、169名の新入生と3名の転学部生、編入生を迎え、定員である600名の学部になりました。本年度は第二段階へのスタートの年です。

文部科学省は8月4日に平成23年度の学校基本調査の速報を発表しました。今年もメディアがとりあげたのは、平成23年3月に大学を卒業した552,794名のうち、進学も就職もしなかった学生が107,134名であったことでした。就職した学生は340,378名で、就職率は61.6%と昨年より0.8%改善しましたが依然大学生にとって厳しい就職状況が続いています。

経団連が加盟企業に対して行なったアンケート結果によると、企業・社会が学生に求め採用選考プロセスで特に重視する点は、順に①コミュニケーション能力(81.6%)②主体性(60.6%)③協調性(50.3%)④チャレンジ精神(48.4%)⑤誠実性(38.9%)とされています。(因みに、学業成績は25項目中16番目の5.4%、出身校は18番目の3.9%です。)上位の5点はある意味ではあたりまえのことですが、実は学生の多くが①～⑤の能力が不足しているとのメッセージではないかと思えます。企業はそれらを身につけている或いはポテンシャルを持っている数少ない学生を探し競い合っています。結果として、どの企業も欲しがるといえる人材はどこの内定も取れる一方、何社受けても内定が取れない学生が数多く出してしまうことに至ります。

実は、このミスマッチには学生の認識のずれもあ

るようです。経済産業省が社会人基礎力として整理した13項目について、企業と学生それぞれに「不足している社会人基礎力は何か?」の問いに対し、「主体性」「コミュニケーション能力」「粘り強さ」「一般常識」の4つに大きなギャップがあり、学生達は自分では身につけていると思っているのに対し、企業は殆ど身につけていないと指摘しているという結果が出ております。

SGS生も一般の大学生とほぼ同様な認識のギャップがありますので、SGSにおけるキャリア教育はこのギャップをいかに埋めてやるかを課題と考えます。少人数教育を柱にしてコミュニケーション力も身に付け、インターンシップなどの経験を早く積み、海外留学や留学生との交流による異文化経験を深め、課外活動としてキャンパスを出てコミュニティ活動に取り組むことを奨励しています。それらにより社会が求めている人材を輩出するのがこの学部の使命と考えます。

キャリア教育とは、就職のための支援ではありません。企業などに就職するのだけがキャリアでもありません。キャリアとは人生の生き方と働くことの意味を自覚し経験を積むことです。担当しているLeadershipの授業でのテーマは先ずは自らをLeadし、一歩を踏出す(Lead the Self)ことを学んで貰っています。大学4年間は社会に出る前の最後の仕上げの時期になります。何のために働く(生きる)のか、働く(生きる)ということはどういうことかを、学生自らが、経験と多様な価値観との交流を通して自覚できるような支援を継続したいと考えます。

今後のスケジュール

- 9月3日(土)・10日(土)・17日(土) 市民講座
- 9月16日(金) 秋入学式、秋卒業式
- 9月19日(月) 秋学期 授業開始
- 9月26日(月)～30日(金) 秋学期 履修科目登録期間
- 10月7日(金)～10月13日(木) 秋学期 履修科目確認期間
- 11月5日(土)・6日(日) 学園祭
- 12月24日(土)～1月5日(木) 冬休み
- 1月23日(月) 秋学期 授業終了
- 1月25日(水)～31日(火) 秋学期 期末試験期間
- 2月1日(水) 春季休業期間 開始

東日本大震災への大学の対応

3月11日の東日本大震災で被災された方々にはSGS教職員一同心よりお見舞い申し上げます。後援会には義援金にご協力頂きましてありがとうございました。さて、今回の大災害に対して本学として実施したことは以下の通りです。

- 1) 被災地域の学生及び全学生の安否の確認
- 2) 多摩大学義援金募集(金額:約310万円)
- 3) 被災した学生に対して授業料減免措置
- 4) 被災地域の学生及び3月卒業の学生に対しての義援金
- 5) 被災地でボランティア活動を行う学生、教職員に対する旅費・活動費等の補助

発行責任者:
学部長 松林 正一郎

多摩大学
グローバルスタディーズ学部

〒252-0805
神奈川県藤沢市円行
802番地
Tel:0466-82-4141

後援会定期総会・懇親会を開催

グローバルスタディーズ学部第3回後援会定期総会が6月18日（土）、湘南キャンパスにて開催されました。2010年度の活動報告と決算報告、2011年度の活動計画と予算案が発表され、参加の皆様（委任状含む）のご承認をいただきました。また、2011年度の役員を後援会役員会で選出し、西恵美子会長に代わり、日高京子新会長を選出、ほか新役員を選出し、賛成多数により可決いたしました。総会后、大講義室で寺島実郎学長の講演が行われました。テーマは「東日本大震災を考えるー日本創生への起点として」で、地域の方々の聴講もあり、盛大に行われました。懇親会では、会員の皆様、教職員が多数参加し、会員同士の懇親を深め、教職員とも和やかに懇談しながら有意義な時間を過ごしました。



2011年度後援会役員

会 長 日高 京子(3年生在籍)
副 会 長 星野 賢(3年生在籍)・秋元 龍之輔(2年生在籍)・Mark Zion(SGS学生委員長)
監 事 鳥越 澄夫(2年生在籍)・松田 千久(1年生在籍)
理 事 西 恵美子(4年生在籍)・鷺田 亨(4年生在籍)・四辻 泉(4年生在籍)
児玉 悦子(4年生在籍)・宮崎 多美子(4年生在籍)・荒井 正子(3年生在籍)
山下 ハル子(2年生在籍)・松田 敦子(1年生在籍)・御影 雅良(1年生在籍)
常任理事 松林 正一郎(SGS学部長)・宮地 隆夫(SGS事務長・国際交流課課長)
清水 克巳(SGSキャリア支援課課長)・瀧川浩人(SGS学生課課長)

学生活動 防犯パトロールボランティア“たまパト”を結成

神奈川県警の呼びかけで、学生を主体とした防犯ボランティア団体が結成されました。県内の防犯ボランティア団体の高齢化が進み、地域に若いパワーを役立ててもらいたいとの働きかけに、SGS生が立ち上がりました。他大学では、数名の参加希望者に対し、SGS生は、90名もの登録があり、ボランティア活動に意欲ある学生が多く集まった大学と言えます。6月10日(金)には、本学で海老根靖典藤沢市長、大竹正幸藤沢北警察署長が出席され、パトロール隊の結成式が行われました。その様子は翌日の神奈川新聞紙面にも大きく掲載されました。

パトロール隊の名称は、学生に募集をかけ、学生投票により“たまパト”に決定。また、イメージキャラクターも募集し、3名の学生が各々素敵なデザインを考案、すべて採用することになりました。活動は、月4回(学期中)、10日・20日・27日・30日に実施(土・日・祝該当日は除く)、各回最大20名のメンバーが交替でパトロールにあたっています。10日は藤沢北警察署員と、27日は地域防犯ボランティアの方々と、20日・30日はSGS生のみで行います。8月30日(火)・31日(水)は、神奈川県庁において、神奈川県内の大学生を集め自主防犯ボランティア研修会が開催され、SGS生2名が参加しました。今後も学生による新しい発想の防犯ボランティアを展開し、地域との交流を深めてまいります。



国際交流

2011年度、正規外国人留学生は10名（内2名は就学ビザ不要学生）、提携大学よりの留学生は1人で合計11名と昨年に比べて大幅に増加しました。（昨年合計7名）一方、本学よりの海外派遣学生は、長期留学8名（内7名交換留学生）、短期13名、海外インターンシップ5名 合計26名となりました。今年度の特長は、海外提携大学を増やしたこともあり、長期留学生が前年度2名に対して8名となったことです。今後は秋学期留学希望の学生へのオリエンテーションを行い、更に多くの参加者を募る予定です。

尚、今年度新たに交流協定を締結した大学は以下になります。

Valdosta State University (USA)
Algoma University (Canada)
The University of Winnipeg (Canada)

平成22年度卒業証書・学位記授与

グローバルスタディーズ学部第1期生の卒業証書・学位記授与を3月27日（日）に挙行了いたしました。3.11東日本大震災の影響により、3月20日（日）に予定していましたが卒業式・学位記授与式並びに謝恩会が中止となり、改めて卒業証書・学位記授与をSGSカフェテリア内で行い53名の学生が卒業、松林学部長から一人ずつ証書を受け取りました。

また、特別賞として、在学中に特に優秀な成績を修めた学生に授与される「成績優秀者賞」2名（西本和子さん、宮坂貴彦さん）と、課外活動に積極的に取り組み、その成果が特に顕著で、本学の発展に功績があった学生に授与される「グローバルスタディーズ学部長賞」1名（花見あや香さん）が表彰されました。

当日は、寺島実郎学長も駆けつけ、祝辞を述べられました。寺島学長が参加することは、学生は知らされておらず、サプライズな登場となり、たいへん感激していました。寺島学長から「学長賞」が、社会工学研究会（寺島学長の授業）に出席していた鮎川礼さんに直接贈られました。また、西恵美子後援会会長より、祝辞をいただき、後援会より記念品が代表者へ手渡されました。授与終了後は、思い出のキャンパスで、写真撮影や軽食をとりながら仲間、後輩、教職員と時間の許す限り、歓談の一時を過ごしました。

松林学部長からは、高村光太郎の「道程」の詩が卒業生に贈る言葉として渡されました。卒業生の皆さんには、社会人として、さらなる高みを目指していただきたいと思います。



平成23年度入学式

卒業証書・学位記授与を行った5日後の4月1日には、第5期生のオリエンテーションがスタート、4月5日（火）には、入学式をパルテノン多摩大ホールで挙行了いたしました。東日本大震災の影響による計画停電等が心配された時期でしたが、滞りなく終了しました。SGS新入生代表として今村満理奈さんが、力強く挨拶いたしました。

式典終了後、パルテノン多摩小ホールに会場を移し保護者懇談会を開催しました。松林学部長による学部説明と、後援会の日高理事による後援会の活動報告の説明が行われました。





学園祭 “SGS Festa” を開催

11月5日(土)・6日(日)に学園祭「SGS Festa」を開催いたします。
今年は第5回の区切りの年であり、原点に立ち返り、グローバル色の再確認と、地域貢献をテーマに、2年生を中心に企画運営を行います。1年生は、AEPのクラス単位での出店を予定し、原則全員参加となります。近隣からは、今年度県吹奏楽コンクール中学部門銀賞受賞の六会中学校(SGSから徒歩5分)の吹奏楽部を招待するなど、SGSを拠点とした地域貢献に取り組みます。

ぜひ、ご家族の皆様お誘い合わせの上、ご来場いただきたいと思っております。開催時間は、2日間とも11:00~17:00です。

新任教員紹介

就任挨拶・自己紹介

William Shang ウィリアム シャング(安田震一)先生

今年四月からグローバルスタディーズ学部へ赴任した安田震一(ウィリアム・シャング)です。当初授業の準備、始めたが未だに整理整頓されない研究室、各種委員会への出席、試験問題作成と採点などに追われ、あっという間に春学期が終わってしまいました。私は今まで、アメリカ、中国、香港そして日本で生活してきましたが、グローバルスタディーズ学部に来て新たな仲間との出会いを楽しみにしております。

もとを辿ると体育会出身の私にとって、最も記憶に残るのは平均体重100キロのアメフト選手とともに過ごしたアメリカでの大学時代のことです。総勢120名のチームの中で、ベンチプレス、マックス165キロ、チーム内四番目に強い選手であったこと、そして当時を振り返ると、プロのNFLにスカウトされるまでではなかったものの、日々の努力とその積み重ねの結果でチームメイトから注目されるようになったことなど、いつまでも私にとって励みになっています。

この経験は、グローバルスタディーズ学部の学生にも通用すると思っております。大学生は、大人になっていく過程で重要な時期であり、人生の何段階かある成長過程の一段階です。そこで学生たちが興味を持った専門や学問に邁進し、一人前の社会人として育つことのお手伝いをさせていただきと思っております。



Learning from Teaching

Brian J. English フライアン イングリッシュ先生

Coming to Tama University does not only mark a new beginning for me, it is also my return to Japan-the country in which I spent eight years during my younger days.

After fifteen years away from Japan, it is not what has changed that surprises me so much, but rather all of the wonderful aspects of the country that have stayed the same. Teaching in SGS helps to remind me of why I spent so many years in Japan and why I am so happy to be back.

There is a sense of connection and determination to achieve common goals through working together.

That cooperation is the essence of community and it is through community that the most important learning takes place.

After working with the students, the faculty and the staff during my first semester at SGS I feel I have grown as a person and as a teacher.

That is what is important to me and that is why I enjoy teaching so much.

One of the greatest benefits of being a teacher is that a teacher is continually learning from students.

I am looking forward to many more semesters of working with SGS students and also to the years ahead when I will see those students of today and they will tell me about how their days at SGS helped them to achieve their goals. That is one of the responsibilities of being a teacher: Helping others to reach their goals. I will continue to do my best to do exactly that.

